

子育て支援だより

「子育てワンポイントアドバイス」

第128回 「親子で触れ合って遊みましょう」

こころの相談員 小林 節子

最近の子どもたちの様子で気になっていることがあります。（落ち着きがない、ことばが遅い、不器用、衝動的、自分の行動をうまくコントロールできない、など。）こうした子どもたちが増えているのではないかというのが、現場の先生方の共通した認識のようです。これは年齢に応じた『感覚統合』が未熟な子が多いということではないかと思われる。

『感覚統合』というのは五感（触覚、味覚、嗅覚、視覚、聴覚）や前庭覚（バランスをとる感覚）、固有覚（自分の体をどれくらい動かせばいいかをコントロールする感覚）などを指します。つまり、人は自分の体を使ったり、道具を使ったり、人とコミュニケーションをとるにも、脳に入ってくるさまざまな刺激や感覚をうまく整理したりまとめたりして、環境とうまくかかわることが出来るのです。

この『感覚統合』は、毎日の子どもの遊びや生活の中で自然に培われるはずのものです。なるべく、テレビやスマホやゲームに依存させず、体を使った遊びをさせたいものです。幼いお子さんであれば、親がかかわってあげることが大切でしょう。

親が子どもを持ち上げて（たかいたかい）をしてあげたり、ふとんの上で一緒に転がったりなどいわゆる「親子ふれあい遊び」は色々あります。また、子どもの年齢に応じたお手伝いをたくさんさせて、体と手先を使わせるのも『感覚統合』につながります。

※小林こころの相談員は、あさひ園・育児相談にて相談活動を行っています。

7月活動報告

朝日学童保育所 日の本クラブが、サマーフェスタASAHIに出店！



おもちゃクジや花火クジ、スーパーボールすくいなど子ども達を楽しめるもので、たくさんのお子様や親子連れの方々にぎわいました。